

本校は、「主体的に行動できる児童の育成」を学校教育目標としている。ESDを「地域の自然や伝統と人々の生活について関心をもち、探究的・協働的に学ぶことを通して、主体的に学ぶ学習者としての態度と実践力を身に付けるとともに、明るい地域の未来を作る担い手としての自己の生き方を考えることができること」と捉え、ESDの実践を通して課題発見・解決力、実行力、自己理解・自らへの自信、人としての思いやり、未来を担う志の育成に取り組んできた。

具体的には、地域の自然や伝統と人々の生活を柱に、様々な活動を計画し、実行した。その中でも、1防災に係る学習、2地域の文化財に係る学習を行った。

1 防災に係る学習

(1) 熊四小防災の日

2018年7月西日本豪雨災害において、本校の児童も被災した。本校では、防災についての正しい知識を学び、災害の教訓を忘れないようにするために7月6日を『熊四小防災の日』としている。黙祷を行い、防災についての人形劇を見て学んだり、被災者の方のお話を聞いたりすることで、災害から命を守るための行動等を学んだりした。



(2) マイ・タイムラインの学習

全校で、ひろしまマイ・タイムラインを使った防災教育に取り組んだ。学年の成長段階に応じて、参観日で保護者と一緒に考えてもらう機会をつくりたり、以前作成したマイ・タイムラインをもう一度見直したりした。学校で学んだことを家庭に持ち帰って防災に関してもう一度話し合ったり、避難に向けての事前の行動や準備物等について共有化を図ったりと、防災の意識の高揚につながった。



(3) 県や地域と連携した防災教育

年間を通して、災害について学び、防災・減災への意識を高める学習を行っている。自分たちで調べるだけでなく、地域の方が行っている防災の取組に参加したり、県や熊野町役場の方をお招きして防災の取組について教えていただいたりした。5年生は西防災交流センターの見学などで学んだことを学習発表会で発表し、他学年や保護者、地域の方に防災への思いを伝えることができた。



2 地域の文化財に係る学習

(1) 三石山登山

ふるさと教育の一環として、6年生児童が三石山登山を行った。コロナ禍以降途絶えていた行事を復活させようと学校運営協議委員の方々が中心となって計画・準備等を行い、熊野高校生や保護者、地域の方々など26名がボランティアとして参加してくださった。児童のほとんどは三石山に登った経験がなく、登山ルートの険しさに弱音を吐いてしまう児童もいたが、ボランティアの方々の献身的な支えによって全員無事に登頂できた。頂上からの絶景に歓喜の声が上がった。



(2) 筆おどり

3・4年生が地域の伝統行事を学ぶ学習の一環として、筆おどりに取り組んだ。地域の方に来ていただき、踊りを教えていただいたり、彼岸船を飾っていただいたりした。運動会の際には保護者の前で披露した後、保護者・児童・地域の方が一緒に交流しながら踊った。児童は地域の伝統行事に触れることで、地域への愛着を高めていった。



(3) 地域学習

3年生は総合的な学習の時間に「熊野町のみりょくみつけ」を行い、熊野町の施設、歴史、特産品、祭り、踊りなどについて調べ、分かったことや体験したことを「熊野の何だコレ！？ミステリー」と題して学習発表会で発表し、他学年や保護者、地域の方と共有することができた。また、北広島町の本地小学校とオンライン交流を行い、熊野町の良さを多く伝えた。



(4) 和太鼓演奏

本校の伝統的として6年生は和太鼓演奏を引き継ぎ披露している。組曲「絆の力」は、西日本豪雨災害から、地域のみんなが力を合わせて頑張っていこうという思いの込められた曲であり、例年地域の方に聞いていただく機会を設けている。今年度も、学習発表会で保護者や地域の方の前で披露した。太鼓による表現で次の学年へ引き継いでいくことで、豪雨災害の教訓を忘れないようにするとともに、地域への愛着を深めることができている。

